

大学生530名に参議院選挙事後アンケート実施 —投票率向上には、やはり政治の現場体験が必要だった—

NPO法人ドットジェイピー

NPO法人ドットジェイピー(以下、ドットジェイピー)は、『若年投票率の向上』を目的に、議員事務所や大使館、官公庁にて政策立案過程や行政について就業体験を積む「インターンシッププログラム」(議員・首長・グローバルインターンシップ)、国家政策立案コンテストを行う「未来国会」を、学生を対象に提供しております。

この度、ドットジェイピーでは、議員インターンシップ参加、未参加の学生を対象に、第23回参議院選挙を終え、今回から解禁されたネット選挙への若者の反応を含めた、若者の政治意識調査を全国530名の学生を対象として実施いたしました。

※さらに詳しいデータをお求めの方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

⇒ 意識調査企画担当 東原幸子(ひがしはらさちこ) 070-5485-6112 h.sachiko.4923@gmail.com

■調査概要■

【調査対象】 日本全国の大学生(大学院生含む)

【有効回答数】 530名(議員インターンシップ参加者236名、参加希望者294名)

【期間】 2013年7月25日～7月29日

【調査目的】 ①議員インターンシップ参加者(=政治の実体験をした人)とそうでない人における投票率と投票行動の違いを意識調査として数値化することで、現場体験というツールが、選挙啓発においていかに有用なものなのかをより具体化させるため。
②ネット選挙解禁に伴う、意見発信についての取り組み方について議員インターンシップ参加者とそうでない者の違いを意識調査として数値化するため。

【調査方法】 WEBアンケート(弊団体学生スタッフの配信) 紙媒体アンケート(弊団体学生スタッフが回収)

■調査結果報告■

1)議員インターンシップ参加者の投票率は、一般投票率の**2.1倍**(※推定値)!!

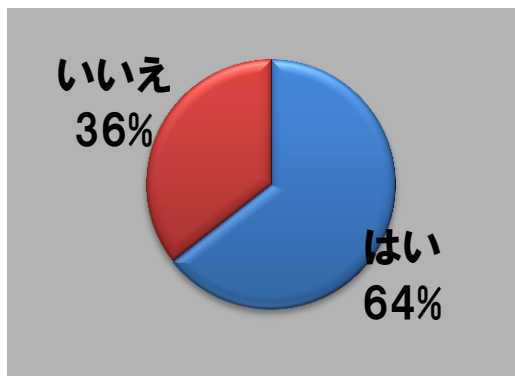
選挙前に議員事務所などで現場体験研修を積んだことのある学生の投票率は実に64%。これは前回の一般調査の投票率と比較し2倍近い投票率であると推測できる。参第25回参議院通常選挙の20代投票率は、前回通常選挙の投票率との比較により算出した暫定値。選挙に行った理由としては、「国民の義務だから」という回答が36%で最も多く、「日本によりよくなっているから」という回答が24%と続き、大人として責任を持つ学生、日本の未来に希望を持つ学生が多くいることがわかった。

2)ネットでの政治・選挙に関わる意見発信にも**3.5倍**という顕著な差が!

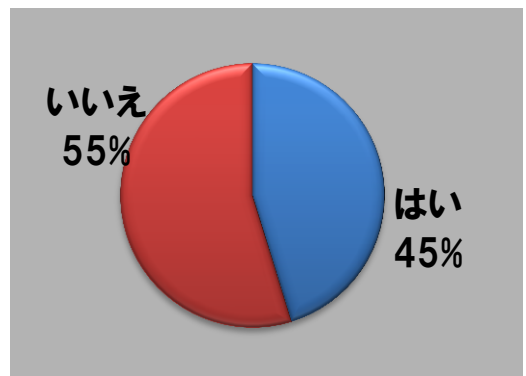
インターンシップ参加者は議員インターンシップ参加希望者(未参加)に比べ、3.5倍もの意見発信を行っていたことが分かった。ツールとしてはFacebookが約半数を占め、中でも「他の人の投稿への『いいね!』や『コメント』または『シェア』をした。」という回答が最も多かった。意見発信を行った理由としては、「自分が意見発信をすることで何かが変わると思ったから」という意見が41%を占め、若年層の意識の高さを伺わせた。

■調査結果報告■

・今回の参議院通常選挙で投票したか？（白票含む。）

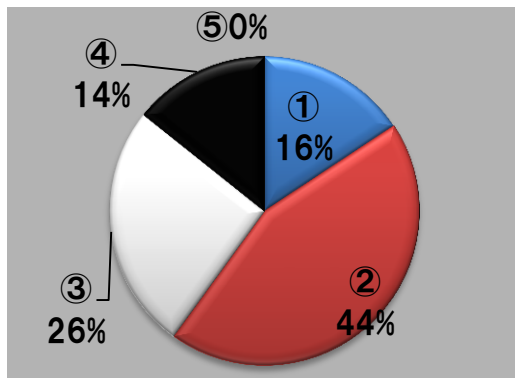


議員インターンシップ参加者

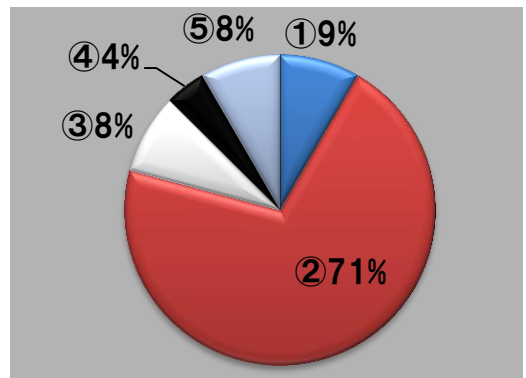


議員インターンシップ参加希望者
（未参加）

・なぜ投票に行ったか。



議員インターンシップ参加者



議員インターンシップ参加希望者
（未参加）

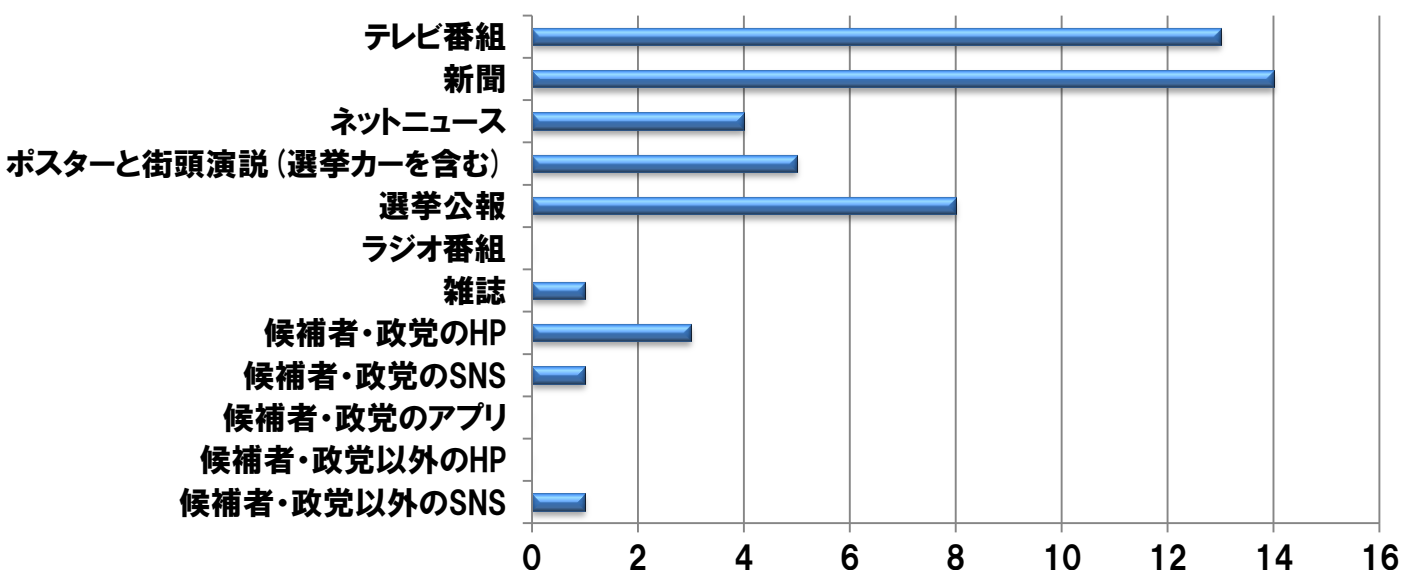
11	①自分が投票するところで何か変わると思ったから。	6
38	②国民の義務だから。	51
18	③日本によりよくなしてほしいから。	6
10	④当選して欲しい議員・政党があるから。	3
0	⑤周りが行っているから。	6

3)政治の現場を体験した学生はより能動的に選挙に関わる。

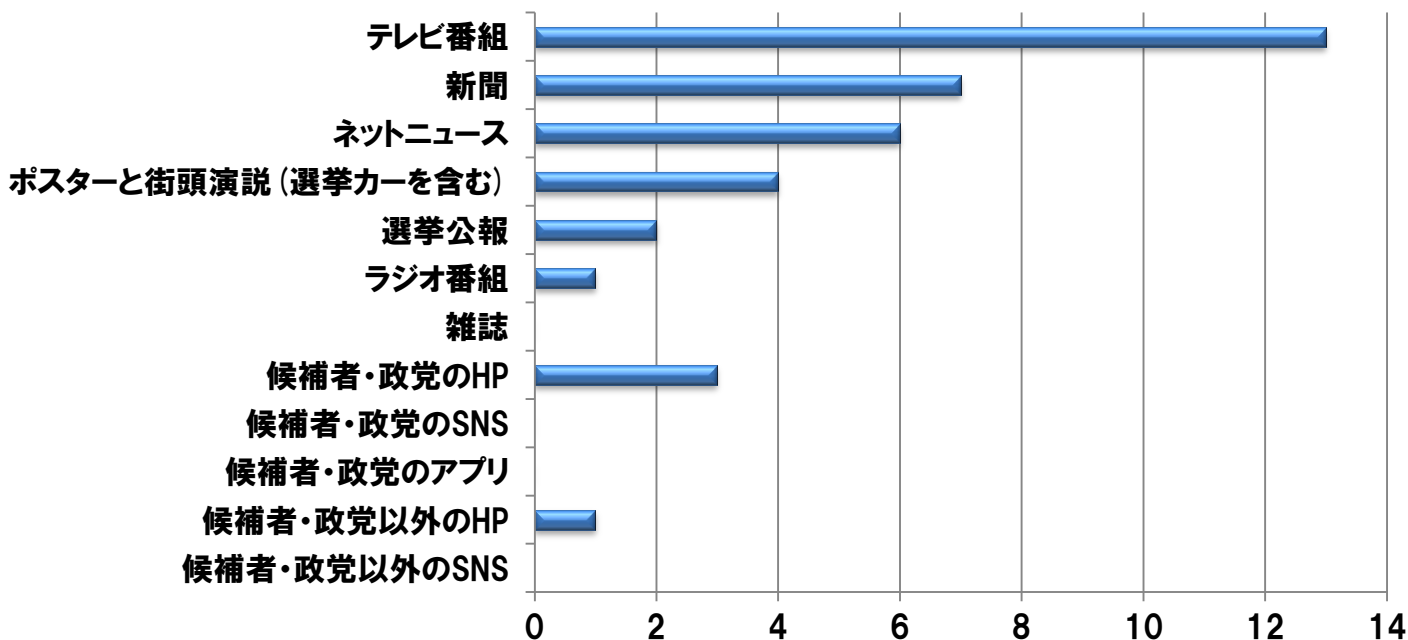
議員インターンシップ未参加者の70%が投票へ行く理由を答えたのに対し、議員インターンシップ参加者は投票によって何か変わる、日本をより良くしたいと回答した。これは政治体験をつむことでより能動的に選挙を捉える傾向にあると考えられる。

・投票先を選ぶ際の判断に、影響を与えた情報媒体。

【議員インターンシップ参加者】



【議員インターンシップ参加希望者(未参加者)】

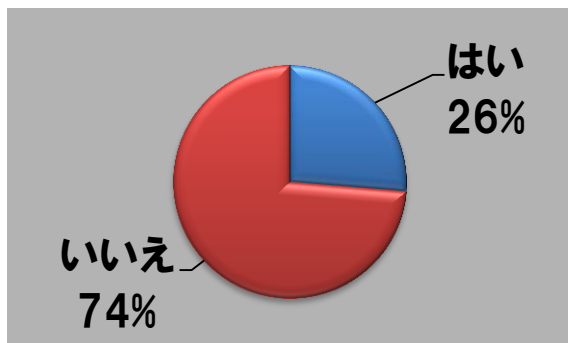


4)ほとんどの学生は新聞、テレビを活用。WEBサイト・SNSの利用は低調。

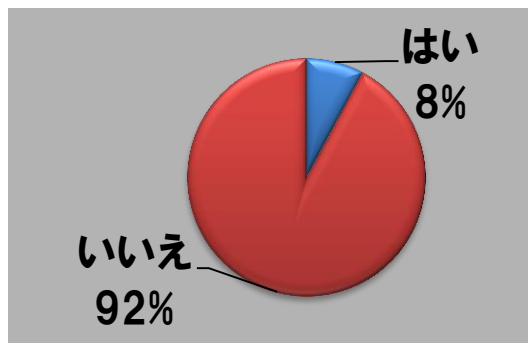
全体的に候補者・政党のHPやSNSが影響を与えることは少ない結果となった。これは、ネット選挙が浸透していなかったこと、候補者側も有効にネット選挙を展開できなかった事が原因と推測できる。同時に、依然としていわゆる主要メディアの影響が大きいということを表すと思われる。

また、議員インターンシップ参加者には、未参加者の2倍、新聞を参考にする学生が多かったという結果から、議員インターンシップという経験が、社会情勢への興味関心を高めているのではないかと推測される。

・ネットを使った意見発信をしたか。

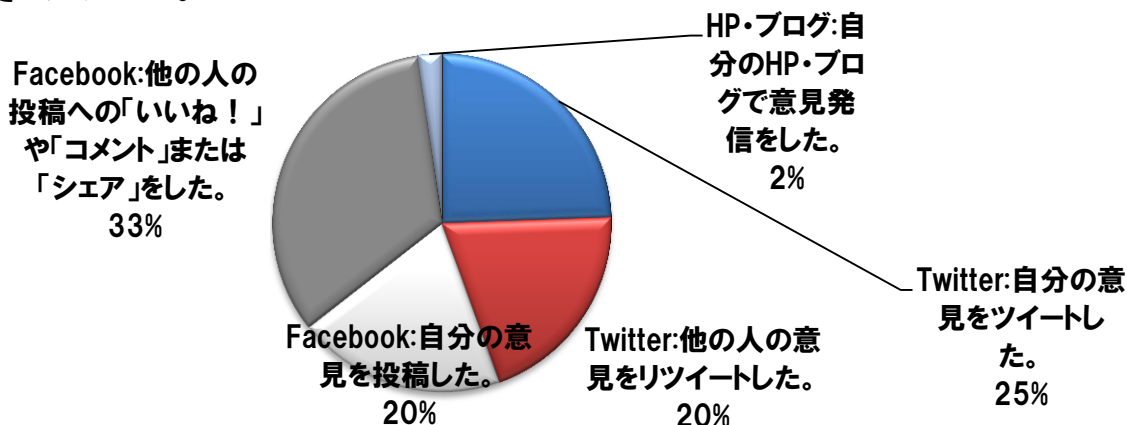


議員インターンシップ参加者



議員インターンシップ参加希望者 (未参加)

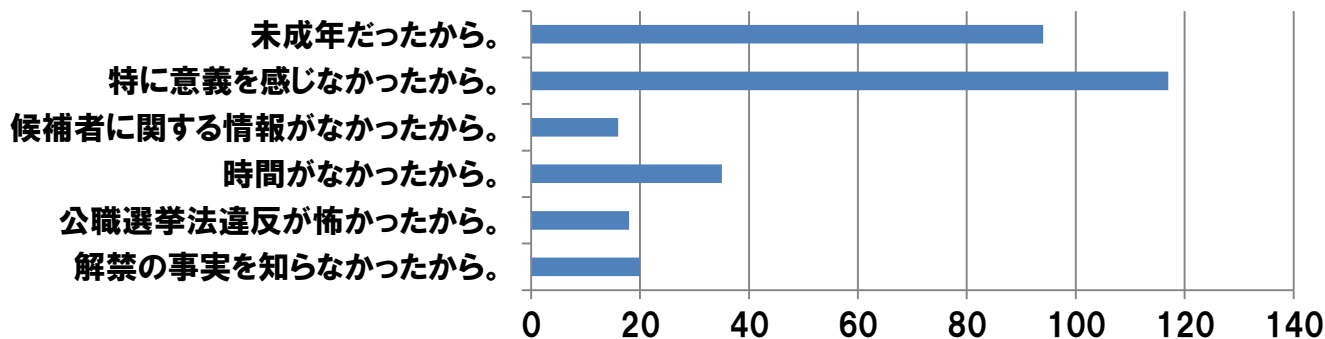
・意見発信に使ったツール。



6) ネット選挙で能動的に意見発信をしたのは少数派。

ネット選挙の期待感とは反対に、実際に意見発信をしたのは議員インターンシップ参加者でも26%と少数だった。その中でも実名登録がルールとされているFacebookと任意に名前を付けることができるTwitterの差はほとんど出なかった。実名での意見発信に抵抗は特に見られない結果となった。

・ネットを使った意見発信を行わなかった理由。



7) ネットでの意見発信に特に意義を見いだせない。

未成年という理由を除けば、半数以上がネット選挙への意義を見出せていない結果となった。これはネット選挙に意義がないと捉えるよりも、学生はどのように利用したら良いかが分からなかったため、意義を見出せなかったと推測できる。

全体を通して、今回のネット選挙解禁の意義は再度問われることになりそうだが、第1回目の今回は有権者もネット選挙を明確に捉えられておらず、候補者陣営も探り探り選挙戦を迎えた事もあり、次回以降の有効なネット選挙の使い方を再構築することは必要になるだろう。いずれにせよ、もっと政治が身近になり、正しい政治情報をいかにして仕入れるかが、有権者にとっても課題となりそうだ。

■質問項目■

Q1:現在のあなたの年齢を教えてください。(必須回答)

☐18歳 ☐19歳 ☐20歳 ☐21歳 ☐22歳 ☐23歳
☐24歳 ☐25歳以上

Q2:現在の学年を教えてください。(必須回答)

☐大学1年生 ☐大学2年生 ☐大学3年生
☐大学4年生 ☐大学院生

Q3:今回の参議院通常選挙で投票をしましたか?

(白票を含めます)

☐はい ☐いいえ

Q3で「はい」と答えた方にお伺いします。

Q3-1:なぜ選挙に行こうと思いましたか?(複数選択可)

☐自分が投票することで何かが変わると思うから。
☐国民の義務だから。
☐日本により良くなってほしいから。
☐当選してほしい議員・政党があるから。
☐周りが行っているから。
☐その他()

Q3-2:投票先を選ぶ際の判断に、影響を与えた情報媒体は
 なんですか?(複数選択可)

☐テレビ番組
☐ラジオ番組
☐新聞
☐雑誌
☐ポスターと街頭演説(選挙カー含む)
☐選挙公報
☐ネットニュース
☐候補者・政党のHP
☐候補者・政党のSNS
☐候補者・政党のアプリ
☐候補者・政党以外のHP
☐候補者・政党以外のSNS
☐その他()

Q3-3:投票の際に、ご自身のなかで判断基準となったものを以下の内容
 から選んでください。(複数選択可)

☐掲げている政策に賛同したから。(特にどの部分か1つお選びください。)
☐健康・医療 ☐子ども・子育て ☐福祉・介護
☐雇用・労働 ☐年金 ☐外交 ☐その他()
☐その候補者を知っていたから。
☐その候補者の人柄が好みだったから。
☐その政党がすきだったから。
☐なんとなく。

Q3で「いいえ」と答えた方にお伺いします。

Q3-1なぜ選挙に行きませんでしたか?(複数選択可)

☐自分が投票しなくても何も変わらないと思うから。
☐投票に行くヒマがないから。
☐どの党にも議員にも期待していないから。
☐どの党も議員もよくわからないから。
☐投票所が遠いから。
☐投票の方法が分からなかったから。
☐投票用紙をなくしたから。
☐政治は自分に関係がないと思うから。
☐どの党・議員も良い政治をしてくれそうだから。
☐その他()

Q4:今回のネット選挙解禁にあたって、ネットにおいて政治・選挙に関わる
 意見発信を行っていましたか?(必須回答)

☐はい ☐いいえ

Q4で「はい」と答えた方にお伺いします。

Q4-1:なぜネットでの意見発信を行ったのですか?(複数回答可)

☐日本の理想像を明確に持っているから。
☐応援している候補者・政党があったから。
☐落選させたい候補者・政党があったから。
☐自分が意見発信をすることで何かが変わると思ったから。
☐その他()

Q4-2:どのようなツールで意見発信を行いましたか?(複数回答可)

☐Twitter:自分の意見をツイートした。
☐Twitter:他の人の意見をリツイートした。
☐Facebook:自分の意見を投稿した。
☐Facebook:他の人の投稿への「いいね!」や「コメント」または「シェア」
☐HP・ブログ:自分のHP・ブログで意見発信をした。
☐その他()

Q4で「いいえ」と答えた方にお伺いします。

Q4-1:なぜ行わなかったのですか?(複数回答可)

☐解禁の事実を知らなかったから。
☐公職選挙法違反が怖かったから。
☐時間がなかったから。
☐候補者に関する情報がなかったから。
☐特に意義を感じなかったから。
☐未成年だったから。
☐その他()

Q5:あなたは議員インターンシップに参加したことがありますか。

☐はい ☐いいえ

■回答者属性■

18歳	6%
19歳	17%
20歳	37%
21歳	26%

22歳	9%
23歳	4%
24歳	0%
25歳以上	1%

■団体概要■

▼NPO法人ドットジェイビー <http://www.dot-jp.or.jp>

本部 東京都千代田区、理事長 佐藤大吾、1998年創業。

全国10支部にエリア展開し、大学生約200人が中心となって「若年投票率の向上」を目的に活動するNPO法人。

累計15,000人の参加者数を誇る「議員インターンシッププログラム」をはじめ、「グローバルインターンシッププログラム」、
 「未来国会」(<http://www.miraikokkai.com/>)、「未来自治体」(<http://www.miraijichitai.com/>)など若年層を対象とした
 社会学習プログラムを提供。

また、「Yahoo!みんなの政治」(<http://seiji.yahoo.co.jp/>)等への議員・議案情報提供など、活動は多岐に及ぶ。